阪市中央公会堂前の広場

ることにした。

笑顔で迎えてくれたの

用美術工芸品には構えて

みを持っていたが、

の東洋陶磁美術館を訪ね ねるのだが、今日は未踏

に出た。いつもなら公会

日

の静けさを味わおうと、 土佐堀川沿いを歩いて大

京阪中之島線開通まで

堂に入るか、

バラ園を訪

子さんであった。これま は、主任学芸員の野村恵 冷たさの中に窯の温かさを感じる陶磁器たち



すと、野村さんは「少し 礎的なことをお尋ねした を持って鑑賞することに いです」と気持ちよく応 いと思っています」と話 者の代表のつもりで、基 基礎知識を得て、親しみ っていただけたらうれし でも陶磁器に親しみを持 しまう傾向があったよう した。早速、 「今日は読

ることだと思います」 お気に入りの陶磁器を見 つけて、何かを感じてい まれたものです。まず、 もともとは使うために牛 ?」「基本的には実用品 陶磁器・陶芸品の特徴は ただけたら。実物に接す であるということです。 「絵画などと比較して

きものの始まりは土器で やすいことでした。やが は、もろく水分を吸収し す。土をこねて低温で焼 て長い時間をかけて、硬 ーツについてである。「や いた器が最初です。難点 陶磁器

く際に燃料の灰が器にふ まな工夫がされていきま 釉の使用です。土器を焼 方法です。大きな進化は く丈夫な器を焼くさまざ た。土の選び方や焼く 土に含まれる 器また。

0

いを総括していただい

は、

透明の釉の下に文様

最後に陶器と磁器の違

ます。磁器の最大の特徴

50~1300度となり

歴史が人間の歴史という

釉の性質にあわせて12

ました。焼成温度も土と

に透明のものが考案され

りました」と一気に説明 磁器が誕生することにな

焼成方法などに改良を加 えてさまざまな種類の臨

鉄分がほとんどなく、白

す。磁器に用いる土には

の土の白さをいかすため

い色が基本です。釉はこ

降、さらに胎土、窯構造、

かけに生まれたと考えら

れています。釉の出現以

800~1200度で

が、焼成に適した温度は

まな色に発色させます

物質と融合してガラス状

緑、

褐などのさまざ

絵

文

熱田親憙

れば」と野村さんは前置 限って比較をするのであ 国により定義は微妙に異 歴史は人間の なります。陶器と磁器に 「厳密には土器、 磁器となり、 いただいた。 す」。野村さんの整然と 技法が生まれたことで を描く釉下彩という加飾 なり、常設展会場に案内 された説明で気分爽快と 歴史

ち越すことにした。 意味があとで分かった。 が一人鑑賞を勧められた この鑑賞日記は次回に持 っくりどうぞ」といわれ、 ー時間ちょっとの鑑賞タ イムとなった。野村さん 入り口で「では、ごゆ

次の質問は陶磁器のル 大阪市役所 御堂筋 大阪市 中央公会堂 各種の金属成分を加えて

## びた色となります。釉は きして、語り始めた。 が多く、焼くと赤みを帯 る土は基本的にやや鉄分 にあります。陶器に用い それらに適した焼成温度 「両者の違いは土と釉、